



平成 21 年 5 月 1 日

各 位

東京都目黒区上目黒二丁目 1 番 1 号中目黒GTタワー20 階
ngi group株式会社
代表執行役社長 金子 陽三
(コード番号：2497 東証マザーズ)

**平成 21 年 3 月期における有価証券等評価損の計上及び
特別損失の発生ならびに業績予想の修正に関するお知らせ**

当社では平成21年1月29日に発表いたしました「経営合理化等を含む今後の経営方針とその影響に関するお知らせ」に基づき、今後あらゆる経済環境下で企業活動を行える財務体質強化と、中長期的な成長に向けた収益力強化を目的とした経営合理化を推進してまいりました。

この結果、平成21年3月期において、保有する有価証券等の厳格・保守的な評価を実施したことにより評価損の計上が必要となったほか、投資有価証券評価損を含む特別損失が発生することとなりましたのでお知らせいたします。

また、これに伴い平成21年1月29日付「特別損失の計上並びに業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」において公表いたしました平成21年3月期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）の業績予想を修正いたしましたので、合わせてお知らせいたします。

記

1. 有価証券等評価損の計上

当社では経営合理化の一環として保有する営業投資有価証券、営業出資金、投資有価証券について売却による手元流動性の確保を進めてまいりましたが、それらの評価についてはその時価あるいは実質価額が著しく下落しているものについて、その回復可能性を厳格・保守的に判断した上で減損処理による評価損計上の必要が生じました。

(1) 営業投資有価証券

当社が保有する営業投資有価証券のうち実質価額が著しく下落しているものについて、その回復可能性を考慮した上で平成21年3月期第4四半期会計期間においては個別及び連結で売上原価として営業投資有価証券評価損 682 百万円を計上し、平成21年3月期では個別及び連結で売上原価として営業投資有価証券評価損 1,018 百万円を計上いたします。

(2) 投資有価証券

当社が保有する「その他有価証券」に区分される投資有価証券のうち、時価あるいは実質価額が著しく下落しているものについて、その回復可能性を考慮した上で、平成21年3月期第4四半期会計期間においては個別及び連結で投資有価証券評価損 442 百万円を計上し、平成21年3月期では個別及び連結で投資有価証券評価損 660 百万円を特別損失として平成21年3月期に計上いたします。

2. 特別損失の発生

当社では経営合理化への取り組みが進展したこと等に伴って平成 21 年 3 月期に特別損失が発生することとなりました。

具体的には、保有する投資有価証券や貸付金について資産価値の回復可能性や回収可能性から処分を進めたことにより平成 21 年 3 月期第 4 四半期会計期間においては投資有価証券売却損 501 百万円、債権譲渡損 205 百万円を個別及び連結で計上するとともに、債権放棄損として個別 52 百万円、連結 62 百万円を計上し、平成 21 年 3 月期としては合わせて個別で 759 百万円、連結で 769 百万円を計上するほか、「1. 有価証券等評価損の計上」で記載のとおり投資有価証券評価損 660 百万円を個別及び連結で平成 21 年 3 月期に計上いたします。

また、グループ会社への転籍と希望退職者募集によるグループ本社機能のスリム化、不動産賃貸借契約の解約や各種契約等の見直しにより翌期以降の固定費の大幅な圧縮を図るとともに、保有する固定資産について厳格な評価を行い固定資産除却や減損を実施しました。これに伴って平成 21 年 3 月期第 4 四半期会計期間においては連結で事業再構築費用 530 百万円、固定資産除却損 45 百万円、減損損失 66 百万円、個別で事業再構築費用 528 百万円、固定資産除却損 19 百万円、減損損失 55 百万円を計上するとともに、また今後の事業再構築に対して個別及び連結で事業再構築引当金繰入 80 百万円を計上し、平成 21 年 3 月期としては合わせて個別 683 百万円、連結 723 百万円の特別損失を計上いたします。

このほか、今後の事業展開を見据えてグループ事業構成の見直しや事業内容の評価などを慎重に行った結果、一部のグループ会社株式の売却およびのれんの減損を実施し、平成 21 年 3 月期第 4 四半期会計期間においては関係会社売却損として個別 201 百万円、連結 84 百万円を計上するほか、のれん評価損として連結 107 百万円を計上いたします。また、子会社株式及び関係会社株式についても現在の事業の進捗や資産の状況などを勘案し、個別で子会社株式減損 238 百万円および関係会社株式減損 16 百万円を計上いたします。

これにより平成 21 年 3 月期においては特別損失として個別 2,709 百万円、連結 2,367 百万円を計上いたします。

3. 平成 21 年 3 月期 通期連結業績予想の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	9,000	1,750	1,200	△360	△2,942 円 93 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	8,800	940	700	△1,750	△14,300 円 65 銭
増 減 額 (B-A)	△200	△810	△500	△1,390	—
増 減 率	△2.2%	△46.3%	△41.7%	—	—
(ご参考) 前期実績(平成20年3月期)	7,775	2,653	2,498	735	6,233 円 93 銭

4. 業績予想の修正の理由

保有する上場営業投資有価証券の第 4 四半期における売却を抑制したことや「1. 有価証券評価損の計上」及び「2. 特別損失の発生」によって、平成 21 年 3 月期通期の連結業績につきましては、売上高 8,800 百万円（前回予想 9,000 百万円）、営業利益 940 百万円（前回予想 1,750 百万円）、経常利益 700 百万円（前回予想 1,200 百万円）当期純損失は 1,750 百万円（前回予想当期純損失 360 百万円）となる見通しです。

5. 今後の見通し

当社では平成21年3月期における経営合理化等の取り組みによる大幅なコスト構造改革の断行し、翌期以降の一般管理費等が年間で907百万円削減される見込みであるほか、当社グループが保有する有価証券（連結している投資事業組合等のファンドにおいて保有する有価証券を除く）のうち未上場の営業投資有価証券、投資有価証券は合わせて416百万円となる見込みであり、投資先の経営実態に即して厳格・保守的な評価を実施していることから今後の減損等による損失拡大の可能性が低減される見通しであります。

平成21年3月期において実施した経営合理化等によって実現した固定費削減等により強化された財務体質を基盤として、既存事業の安定的な収益確保と成長に向けた事業強化・拡大に、グループ各社一丸となって努めてまいりますので引き続きご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

以 上

■本リリースに関するお問い合わせ

n g i g r o u p 株式会社 IR担当

Tel:03-5725-4802 Email: ngi-ir@ngigroup.com